

製品名: LXR α ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13499**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、ゴールデンハムスター
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	50kDa

抗原情報

遺伝子名	NR1H3
別名	NR1H3; LXRA; Oxysterols receptor LXR-alpha; Liver X receptor alpha; Nuclear receptor subfamily 1 group H member 3
遺伝子 ID	10062.0
SwissProt ID	Q13133
免疫原	抗血清は、ヒト NR1H3 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 151-200

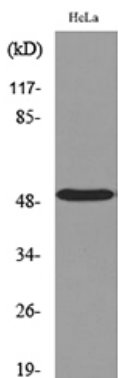
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、核内受容体スーパーファミリーの NR1 サブファミリーに属する。NR1 ファミリーのメンバーはマクロファージ機能の重要な調節因子であり、脂質恒常性と炎症に関する転写プログラムを制御している。このタンパク質は、肝臓、腎臓、腸などの内臓器官で高発現している。レチノイド X 受容体 (RXR) とヘテロ二量体を形成し、レチノイド応答配列を含む標的遺伝子の発現を制御する。この遺伝子を欠損したマウスを用いた研究では、コレステロール恒常性の調節において重要な役割を果たす可能性が示唆されている。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2011 年 10 月]、機能：オーファン受容体。RXR との相互作用により、RXR はサイレント DNA 結合パートナーとしての役割から、LXRES によって定義される標的遺伝子を介してレチノイド応答を媒介する活性リガンド結合サブユニットへと変化する。LXRES は、4ヌクレオチド間隔で2つの類似したヘキサヌクロチドハーフサイトが直接反復する DR4 型応答エレメントです。コレステロールの恒常性調節において重要な役割を果たします。、誘導：9-シスレチノイン酸 (9CRA) による。、類似性：核ホルモン受容体ファミリーに属する。、類似性：核ホルモン受容体ファミリー (NR1 サブファミリー) に属する。、類似性：核受容体 DNA 結合ドメインを1つ含む。、サブユニット：LXRA と RXR のヘテロダイマー。、組織特異性：内臓特異的な発現。肝臓、腎臓、腸管で強い発現が認められ、次いで脾臓、そして副腎で弱い発現が認められました。、

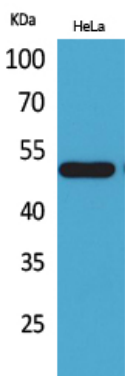
研究分野

PPAR;

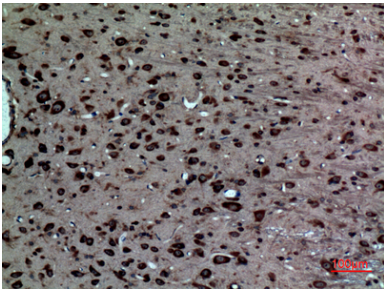
画像データ



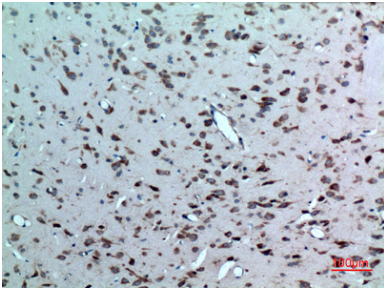
NR1H3 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解液のウェスタン ブロット分析。



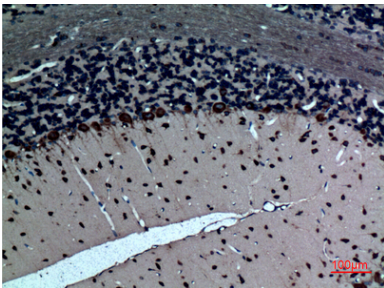
LXRα ポリクローナル抗体を用いた HeLa 細胞のウェスタンブロット解析。抗体は 1:500 に希釈し、二次抗体は 1:20000 に希釈した。



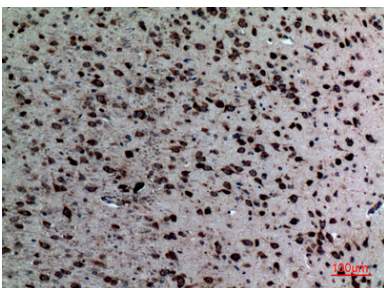
パラフィン包埋ラット脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



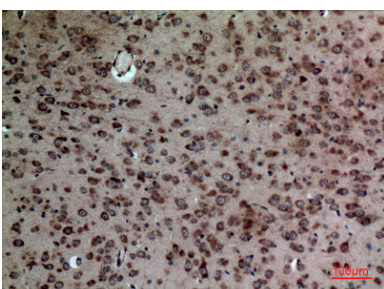
パラフィン包埋ラット脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



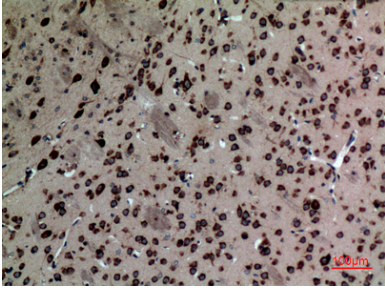
パラフィン包埋ラット脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋マウス脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋マウス脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋マウス脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された